

学校点描 +

プラス

桜の葉の色もつきはじめ、風が吹くと空からパラパラと葉っぱが落ち始めました。

《K中学校》

NO.10

R4. 10. 18

担当：校長

10月1日（土）は、地区新人大会陸上競技大会がS市陸上競技場において開催されました。三者面談の時期と練習の時期が重なり、放課後練習は担任以外の先生方総出で指導にあたりました。ユーチューブなどを活用しながら教えたりしました。結果、女子総合で第3位、男女総合は第6位に入賞しました。主な種目の入賞者は次の通りです。女子の部は、K・Kさんが2年100mで優勝、200mで優勝しました。共通800mと共通1500mではT・Aさんがどちらも2位に輝きました。共通走高跳ではH・Mさんが第3位、Y・Sさんが8位に入賞しました。共通砲丸投はY・Sさんが第4位に輝きました。共通4×100mリレー（K・Kさん、K・Mさん、C・Mさん、H・Sさん）が8位に入賞しました。男子の部は、Y・Sさんが共通800mと共通3000mで優勝しました。K・Tさんは、共通200mで第3位に輝き、2年100mで第6位に入賞しました。共通砲丸投は、O・Kさんが第6位に入賞しました。共通4×100mリレー（S・Kさん、K・Tさん、Y・Hさん、Y・Kさん）が7位に入賞しました。

10月より、お休みされた明石先生の代替教員として井上 拓郎さんが本校の職員としていらしていただくことになりました。専門教科は体育です。まだ23歳という若い先生ですが、これまで萩野学園、明倫学園で勤務なされてきました。スキー部の顧問としても練習をみていただきます。よろしくお願いします。

令和4年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動標語最上地区優秀作品、優秀賞を『声に出そ 苦しい気持ちを 半分こ』で3年 S・Rさんが受賞しました。ほかに、入選は、O・Kさん、T・Nさん、S・Rさん、S・Hさん、S・Mさん、S・Kさん、S・Rさんです。

Y県少年少女俳句大会にて、Y・SさんがO市教育委員会教育長賞に輝きました。『カレーかな ひぐらしの鳴く 帰り道』 お腹がすいて急いで家に帰る姿が浮かびます

13日は、3年生の3年間にわたるK山学の発表です。3年前にわたしと共に金中に来た3年生。ロボットを使って住みよい街づくりや、バスの再利用の提案、大工の働き手を増やす研究もありました。数は少なかったですが、発表を聞きに来てくれた保護者の方もいました。M・RさんのK山杉の発表に、進行のK・Rさんは、Rさんのお母さんに感想を求めています。K・Rさんの心配りを感じます。

「親ガチャ」

「親ガチャ」と、初めて聞いたとき、わたし、ドキッとしました。



ガチャとはすぐに、あの、ゲーム機の「ガチャガチャ」だとすぐにわかりました。ガチャガチャは、商品が出てくるまで中身が何か分からず、自分のお目当ての物を手にできたときは喜びに溢れるものの、興味がない物だった場合はガッカリしてしまいます。あのカプセルトイと呼ばれる機械と親が合わさった造語が「親ガチャ」です。

よくよく話を聞くと「親は自分じゃ選べない」それをおもちゃ売り場やソーシャルゲームの「ガチャ」に例えたことばだということです。

「親ガチャ」という言葉は、子どもにとって物事が親の影響で上手く進まなかったときに口にする人が多いようです。NHKでも、この言葉についてインタビューしています。

例えば、「私は親同様ブスだから、全然かわいい洋服やメイクが似合わないのが悩み。あーあ、親ガチャ失敗だわ」「うちの親は貧乏だから大学進学無理っぽい。親ガチャがハズレた～」などというように使うと言うのです。

そんなことなら、「なんでもかんでも、失敗を親のせいにするな！」と言いたい気持ちにもなります。

『親の意識に関する世論調査』は、全国の満6歳から18歳未満の子どもをもつ親を無作為抽出して実施したアンケート調査です。一例をあげると、「世間一般と比べてしつけは厳しい方

だと思いませんか？」の問いに、「世間並み」が44.8%で、「どちらかといえば甘い方」が21.4%です。「子どもとよく話をする方か？」に対しては、「よく話す」が60.6%、「時々話をする」が31%、「あまり話をしない」が7.6%と続きます。

「子どもから信頼されているか？」の問いに対する回答は、「ある程度信頼されている」が54.4%、「信頼されている」が35%、「あまり信頼されていない」「信頼されていない」併せて7.1%でした。

こんな特徴的な問いもあります。「高齢になったとき子どもと一緒に住みたいか？」の問いで、「できれば一緒に住みたい」が49.7%、「一緒に住みたいとは思わない」33.6%、「ぜひ一緒に住みたい」は10.8%です。「一緒に住みたいとは思わない」のはなぜなのでしょう。

「親ガチャ」と言う、子どもの気持ちも知りたいものです。

昔もらった、学級たよりの返信メールですから、もう時効でしょう。

中二の娘が幼稚園児の頃のこと最近思い出しました。

その頃、園から帰ったら一緒にソファでゴロゴロするのが日課でした。

その日も「幼稚園どうだったあ？」なんてキャッキャウフフしてたんですが、娘がふとわたしの髪に顔を当てて、

「おかーさん、いい匂いがする！」と言ったんです。

「え〜、どんなあ〜？」と聞いてみると、娘はしばらくの間うーんと考えて、パッと顔を輝かせてこう言いました。

「あ！わかった！やきそばのにおい！」

「・・・」

私は、いい匂いってなんだろう〜？フローラル的な？それともフルーティかな？なんて想像していたのに、・・・“やきそば”（笑）

もいろいろおかしくて大笑いしたって話なんです、なぜか今思い出して笑えてきたんです。娘と一緒に暮らしていると、こんなにおかしな話がいっぱいありました。思い出すと笑ってしまう話のストック。

あの頃は、娘が元気に自分らしく成長すればよかったはずなのに、どうして今はこんなに自分の思い通りに娘をコントロールしようとする自分がいるのでしょうか。

今回の先生の学級たよりで、今は会話をすることも避けてしまった娘に、「生まれてきただけでありがとう。」そう言おうと思いました。

某娘との関係に悩んでる母より

『親ガチャ』の調査。最近、ネットの中でしか見ない、周りでも使わないというのが取材した高校生の声だったとNHKの取材班の話。

注意しなきゃいけないのは「親ガチャ」に外れたというのは、決して親を非難したり、責任を押しつけないという訳ではないということです。硬貨を入れて、ハンドル回した結果、欲しいおもちゃのガチャに外れても、誰もガチャの責任だなんて言わないでしょう。

この表現がいい悪いという議論はあるでしょうが、「親ガチャ」という言葉には、意外にも、思い通りにならないで、にっちもさっちもいかない自分を、笑って運の悪さにする、子どもなりの対処の仕方の工夫があるのかもしれない。

中学生時代に会話を避けられた某娘のお母さんは、今も娘と暮らしていると聞きました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。